

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和2年11月20日発行

No.136



(恋野:熊谷家)

恋野地区にある熊谷家。農家の一般的な造りだそうです。こじんまりとした空間で、何人家族が住んでいたのでしょうか。

今では断捨離がはやったりしましたが、「足るを知る」生活そのものかもしれません。

小笠原 美雪

信州の歴史的まちなみ フォーラム2020in信州松代

副理事長 新井 新作

10月10日、長野市松代町において首件タイトルに参加したのでその報告です。信州の歴史的まちなみネットワークは、平成元年9月に長野県太田副知事のバックアップにより発足しました。その目的は「地域資源である歴史的なまちなみを活用したまちづくりに取り組む団体が一つに繋がることにより、その魅力を発信し、地域、世代を超えた多様な視点を取り入れた歴史的まちづくりに係る活動を推し進めることを目的とする」長野県下で活動している団体のネットワークです。県建設部都市・まちづくり課 景観係が支援をしています。当会の藤原理事長が代表を務めています。

台風14号の影響もあり小雨でしたが11時頃には雨も上がり午前中は町歩きでした。松代駅舎、城下町に残る真田10万石の家老、重臣の屋敷、御門、松代藩文武学校等見応えのある松代のお宝を案内人のガイドにより見学することが出来ました。特に文武学校はよくぞ保存されてきたと思います。やはり案内人の説明があるとよく理解できます。

午後は町並みフォーラムでした。太田副知事の挨拶は歴史的町並みの価値と長野県民の連携の重要性であり今後の活動への期待でした。基調講演は元長野県立歴史博物館総合情報課長の宮下健司さんで、日本は妻籠を中心に、ヨーロッパ、南アメリカ、アジアと多方面に渡りカラー映像による特徴的な建物の紹介がありました。その後宮下さんの司会による妻籠藤原理事長、松代香山理事長、戸倉上山田のタイラー・リンチさん、長野県観光機構 岩本部長さんがそれぞれの思いとウィズ・コロナについての発表後フリートークと続き、あっという間の3時間でした。松代、妻籠ともに歴史的町並み保存と共通の課題に取り組んでいるが、その成り立ちの違い（城下町と宿場町）、現在保存に対する財源措置の差（長野市と南木曽町）、将来に対する取り組み、特に観光資源としての取り組み方の方向性の違いについて気になりました。知らないところを見学できることは井の中の蛙になるのを防ぎます。来年は小諸で北信越町並みゼミと共催のようです。皆さんも参加しましょう。

[まちなみフォーラムの写真は6頁に掲載]



赤羽国土交通大臣妻籠宿視察

理事長 藤原 義則

赤羽一嘉(あかばかずよし)国土交通大臣が10月18日新型コロナウイルスの観光への影響を確認するため妻籠宿を訪れました。野津北陸信越運輸局長、坪井中部運輸局長も同行し、町の空き家・古民家対策事業(田原家・桜井家・旧農協)や脇本陣を視察後、寺下までを向井町長と藤原で案内しました。来宿の目的は国の観光支援事業「Go To トラベル」の効果や現場の確認でした。

宿場の中は日曜日という事もあり多くの観光客でにぎわっていました。その後木曽町の役場で地域の観光協会や県バス協会の表など二十人ほどで意見交換を行い、南木曽町からは向井町長・高橋観光協会長・藤原でした。大臣は、「馬籠宿・妻籠宿は観光客が随分訪れていた。少しずつ明るくなっている。この流れに水をささないよう取り組んでいきたい」と話されました。

〃 TRAVEL 〃



— 桧笠の里を訪れて — 妻籠宿案内人の会現地学習会

妻籠宿案内人の会 半場美由

桧笠の作成の見学は、私は初めての体験でした。

笠をかぶってみて、とても軽く、日笠にもなり、雨にも強い。きれいな編み目を毎日毎日編み続けるとは、根気のいる仕事で大変だろうと思いながら見ていました。すると、皆様の昔話の中で、おじいさんがカンナでひでをひき、おばあさんがその長年の勘でしかわからないひでの厚さ、薄さで文句を言いながら作業していた様子を楽しそうにお話しておられました。よいお話に、心が温くなり、その笠をかぶり旅行く人々が、雨や日照りをしのぎ中山道を歩く様子に思いをはせました。1時間ほどの間に、一つの笠がほぼ完成。何代も受け継がれてきた蘭桧笠の伝統技法に触れられた、とても良い時間を過ごすことができました。

木地師の里では、木地師の使う道具に工夫を施し、より良いものを作るという熱意を感じ、良い物は高いものでも長く使えることを確認しましたが、伝統的工芸を維持することも大変だと思いました。

昼はとても美味しい蕎麦をいただき、また友達と一緒に来たいと思うお店でした。

帰る途中に深い山々の雨あがりの緑を見ながら、木曽は山の中にある美しい場所であることを誇りに思いました。とても有意義な現地学習会に参加させていただき、ありがとうございました。



〈桧笠の家見学〉



〈木地師の里〉

(2020年9月25日：9名参加)

景観保持のため、宿場内での
路上駐車はやめましょう！



愛宕山の火まつり

恋野 今井好紀

新型コロナウイルス感染拡大の中、当地でも、和智埜神社の夏の例大祭の神輿巡行等各種行事が中止となる中、地域の住民の熱意と万全の注意をしながらの火伏と防災の神様を祀ってある愛宕山の火まつりが、盂蘭盆の8月24日盛大に開催されました。

当日は、愛宕山の急勾配の登山道を働き盛りの若い衆を先頭に、用意した松明、灯油、飲み物等を担いで登るのです。水物は大変です。背中で揺れます。堪えます。私の持ち物は松明一束、それでも頂上にたどり着く頃は息も絶え絶え。妻籠の若者・壮年は頼もしいなあ。

今年は、将来この行事を引き継いでくれるであろう小学校の児童が2名（6年と2年）登って来てくれました。財団の常務理事横山さんの子どもたちでした。

思えば、私がこの火まつりに参加するようになったのは、約40年前からです。当時はよく子どもたちが登って来てくれました。子どもたちのおやつも沢山担ぎ上げました。子どもたちと一緒に「愛宕山に火がついたぞー!!」ふもとに向かって叫びます。下からも答えの声が届きます。今年は本当に久しぶりに「愛宕山に火がついたぞー!!」元気な子どもの声が混じりました。下からも元気な答えがありました。

私も知らぬ間にすいぶん年を取りました。だけど、山が好きだから、叫ぶのが大好きだから「来年も元気で登るぞ!」

子どもたちも沢山登るといいなあ。そうすれば長く長く絶えることなく受け継がれていくこと間違いなし。伝統ってそういうものだよな。



総務委員会 消火栓点検作業について

総務委員長 今井啓文

コロナ禍や天候不順の為予定より遅れてしまいましたが9月29日、大井水径路の消火栓の点検作業を行いました。

言うまでもなく、この水源は蘭川であり、大井水組合の特に三役の方々には取り入れ口から沈澱池、二つ有る排水池の維持管理を年間を通してして頂き、住民の皆様には草刈作業などで維持して頂いております。

当日は総務委員会と共に教育委員会、南木曾町観光協会、妻籠観光協会の方々にも協力をお願いし十数名の皆様が集まって頂き作業を開始しました。

大井水径路の消火栓は宿場内に66ヶ所あります。その中には街道沿いだけでなく、民間の家の中に設置されていたり裏庭に有ったり、分かりにくい物もありその場所を覚えて行くのも目的の一つ。防災訓練の折りに、消火栓から泥水が出たことを記憶されていると思いますが、水道水では無いため最初は殆ど茶色く濁った水を清んで来るまで流し、錆で回り難く成ったハンドルを手当し、いざと言うときに直ぐ使えるようにしなくてはなりません。道路改良工事の際には水道水につなぐ計画もありますが、昨今は地球環境の変化もあり何時どんな災害が起きるのかわかりません。

どんな時にもスムーズに対応出来るように定期的に整備しなくてはならないことを改めて思いました。しかしながらそんな事が無い様に願っております。作業にご協力頂きました皆様有り難う御座いました。



旧妻籠小学校の思い出

上町 三 浦 順 明

旧妻籠小学校閉校から23年が経ち、いよいよ校舎の半分と体育館が解体されることとなりました。

私たち、63年度卒業生が色々な記念品を残した妻籠小学校は、恩師にとっても思い入れが深い様で、「最後の姿を見に行っていかな」とお電話を頂いたのはお盆の頃でした。

ちょうどその頃、解体に先立ち8月の末に一般公開が行われるとのことで、遠方に暮らす同級生にも声をかければ…と考えたのですが、残念ながら町外の方は入れないとのことでした。そこで、改めて9月5日に恩師に都合を合わせて頂き、近隣の同級生のみ声をかけることにしました。

当時、私たちは校舎の外と天井裏にタイムカプセルを隠しました。外の物は平成26年に同級会を開催した際に、既に掘り起こしています。その時は、「大人になったらみんなで飲むぞ」と恩師が入れてくれたウイスキーを飲みながら、当時の日記や作品、未来の自分へ向けた手紙や家族からの手紙に、泣いたり笑ったり、とても楽しかったのを思い出します。

今回は恩師と3人の同級生での集まりとなりましたが、校舎の中も可能な範囲で見ることができました。事前に天井裏から取り出しておいたタイムカプセルを開け、当時の自分たちが発行した壁掛け新聞や、修学旅行で行った三重県の坂手島での思い出をまとめた記録など懐かしいものがたくさんあり、子供ながらの視点で描かれた挿絵や記事などに大笑いをしました。

どの年代の方々にも、解体前に同級会を開催したかったという思いがあったかと思いますが、コロナ禍により難しい状況となり残念に思われていることでしょう。

ゆっくりと同級会が開催できるようになるのは、何年先になるか分かりませんが、その日までタイムカプセルは私が預かり保管することになりました。



※写真は

- ・未来の米作りをテーマに5年生の時に描いたもの
- ・工作部で作成した大風、運動会のチーム看板
- ・平成26年に外に埋めていたタイムカプセルを掘り起こしたときのもの

残念！「文化文政風俗絵巻之行列」 コロナに負ける

理事長 藤原義則

恒例となっている、11月23日の妻籠宿最大イベント「文化文政風俗絵巻之行列」は新型コロナウイルス感染防止のため中止とします。

三密の防止の観点から過日の理事会において中止を決定しました。妻籠宿保存の原点でもあり半世紀以上に亘り、一度も途切れることなく催行してまいりました事業が中止せざるを得ないことは残念ですが、ご理解願います。瓦版につきましては発行します。近々には配布します。

今年は妻籠宿の多くの行事が中止となり寂しい限りですが、来年こそ皆さんの協力で盛大に出来る事を願うのみです。



〈第50回文化文政風俗絵巻之行列の様子〉

10月15日 環境保全委員会主催の外来植物駆除作業が行われました！

6・7月の長雨とその後の猛暑で延び延びになっていた作業をようやく行うことができました。今回はセイタカアワダチソウが目立ちました。



10月10日小雨の中で行われた「信州の歴史的まちなみフォーラム」の様子を紹介します。

(関連記事:2頁)



宿 場 暦

- 8月 2日：三役会
 3日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会
 (理事長・常務)
 5日：外来種駆除作業及び講習会
 (木曽風景街道推進協議会:開田・3名)、
 テレビ信州撮影
 12日：理事会
 18日：第1回木曽地域文化遺産活性化協議会
 活性化委員会(合庁:理事長)、
 木曽地域観光ガイド代表者会議
 (上松町:案内人の会)、テレビ東京撮影
 20日：統制委員会、広報135号発行
 22日：(妻籠宿火まつり:中止)
 23日：令和2年度第2回観光地点パラメータ調査
 24日：愛宕山火まつり
- 9月 1日：県観光機構来宿打ち合わせ(理事長)
 5日：三役会、観光ガイド養成講座(案内人の会)
 11日：第1回コンテンツ造成検討会(伊那市:理事長)
 17日：広報部会
 23日：統制委員会
 25日：妻籠宿案内人の会現地学習会(蘭:9名)
 29日：消火栓点検作業(総務委員会:12名)



- 10月3日：観光ガイド養成講座(案内人の会)、
 東海テレビ撮影
 7日：るるぶ撮影
 8日：三役会
 10日：信州の歴史的まちなみフォーラム
 2020 in 信州松代(正副理事長参加)
 11日：(妻籠地区大運動会:中止)
 14日：長野放送撮影
 15日：オオハンゴンソウ除去作業
 (環境保全委員会:16名参加)
 17日：観光ガイド養成講座(案内人の会)

- 18日：赤羽国交大臣視察来宿案内・意見交換会
 (理事長)
 20日：統制委員会
 26日：リニア中央新幹線町内現地視察(常務)
 27日：日本遺産「木曽路」事業検証・検討部会
 (木曽町:理事長)
 30日：主要地方道中津川南木曽線改良工事
 説明会(役場:理事長)、衣装部会、
 広報部会
 31日：中山道環境整備(～1日、7名参加)

統制委員会審議事項

- 8月20日
 ・災害復旧及び車庫屋根工事(恋野) 1件
 ・木曽圏域案内サイン改築(木曽広域:第2P) 1件
 ・木曽広域ケーブルテレビの光化工事
 (木曽広域:妻籠地区全体) 1件
 ・引込線張替(中電:大妻籠) 1件
 ・電灯引込線新設(中電:渡島) 保留
 ・塵芥検知用カメラの設置(関電:尾又) 1件
 ・群状択伐(関電:軽便道・大妻籠・下り谷・尾又) 4件
 ・その他(中町:雨樋修繕)
- 9月23日
 ・倉庫兼作業場新築(渡島) 1件
 ・立木伐採及び枝払い(建設業協会:橋場) 1件
 ・地質調査・観測井ボーリング
 (国際航業:大崖砂防公園) 1件
 ・配電線設備の保安伐採(中電:軽便道・生活道路沿) 3件
 ・町道和合妻籠線道路災害復旧工事(町:蛇石) 1件
 ・危険木伐採(町:細野山) 1件
- 10月20日
 ・仮設現場事務所設置(名工土木:恋野) 1件
 ・道路排水施設・道路舗装修繕(県:256号) 1件
 ・墓地の建築(上在郷) 1件
 ・堀の新設(寺下) 1件
 ・農業用倉庫移転(生活道路沿い) 1件
 ・男滝女滝景観支障木伐採(教委:馬籠峠) 1件
 ・住宅修繕(下り谷・塗装) 1件
 ・屋根葺き替え(下町:車庫) 1件
 ・玄関入口修繕(上町) 1件

発行:公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

外来植物駆除講習会に参加して

妻籠宿案内人の会会長 野田 覚

前回号にて、環境保全委員長から「オオハンゴンソウ除去作業」の記事が掲載され、同様の外来植物駆除講習会が、木曽風景街道推進協議会の主催により開催された。遅かった梅雨明け後の8月5日に、開田高原西野へ3町3村から43人が集結し、妻籠を愛する会からは、理事長を含め3名が参加した。

開田の県道横で、一面見事に黄色の花が咲き誇るオオハンゴンソウの群生地を見学観察し、抜き取る駆除作業は暑い日差しの中、約1時間を掛けて2トラック1杯分となった。

駆除作業の後、開田高原体育館の床に密にならないよう座り込み、地元在住の楯誠治先生による外来植物についての約30分の座学講習を受けた。在来種が追いやられる生態系への影響が大きい16種が国の特定外来植物に指定され、木曽谷では5種が確認されている。その中で、オオキンケイギク・オオハンゴンソウ・アレチウリの3種を重点駆除対象としている。その他の外来植物としては、セイタカアワダチソウ、ブタクサ、メリケンカルカヤ等多くの種類が生育している。オオハンゴンソウが増えるのは、根からランナーが伸び次の株を作るのと種子（1花に250個位の種）が落ちて子が育つことによるが、駆除の基本は根こそぎ抜き取り繁殖させない事です。

妻籠地区でも、オオハンゴンソウが目につくようになり、恋野の生活道路の上で8月になると黄色の花が多く見られる。水路や沢のチョロチョロ流れる湿地を好み石やコンクリのわずかな隙間でも育つ。抜き取るには、つるはしを使い掘り取るのが良い。1人で駆除作業をしても、取り切れなくうんざりするので環境保全委員会の旗振りで、オオキンケイギクが妻籠には見当たらなくなったように、多くの人の参加を得て、少しでも無くなるように頑張りたい !!



開講式 ～ 駆除作業 ～ 座学講習会